



Yシリーズレトルト包装のパイオニア

1. はじめに

弊社は昭和40年に創業、「お茶漬け用全自動包装機」を開発し、続いて、同42年には「経節シール機（窒素ガス充填式）M型充填機」を開発するなど、終始一貫してお客様のニーズにお応えし、全自動充填包装機の専門メーカーとして、ユーザーから絶大なご好評をいただけてきた。

特に、弊社が全機能を結集して開発した「調理済食品全自動充填包装機」「味噌用全自動充填包装機」「カップ・缶・ビン詰め全自動充填包装機ライン」など一連の高性能システムは、全国のユーザーから力強いご支援をいただき、すでに納入実績は4,500台に上り、わが食品業界にいささかなりとも貢献させていただいたと自負しているところである。

「新世紀充填包装の横浜自働機」をモットーとして、社員一同、日夜研鑽に努めているが、これからも多様化するお客様のニーズにお応えすべく、真心のこもった高性能機の開発と営業面のキメ細かなサービスに、全社の総力を傾けて邁進する所存である。

『包装』の理想にむかって…

—基本の技術力を活かし、
精度の高い開発機を生みだす—

包装界のパイオニア
株式会社 横浜自働機
株式会社 横浜自働機エンジニアリング
専務取締役 興水 博

2. 包装機械の企画から納入まで

（企画）包装のシステムラインを目指す。

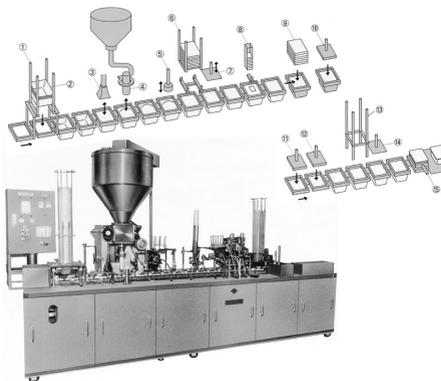
多様化するニーズに積極的に対応し、包装機械の単体完成だけにとどまらず、包装システム化と総合エンジニアリングを目指していく。

（研究・開発）基本の技術力を活かし、精度の高い開発機を生みだす。

これまで進めてきた当社の技術パターン、「容器の供給・充填準備・計量充填・脱気・封口部密封・冷却プレス・計数・排出」などこの基本の間欠動作のメカニズム機構を基本技術とし、さらに、より精度の高い計量技術、安全性、簡単な操作性、アラーム対処システム、より完璧な密封技術等をこれに加え、これからの包装ライン化の研究開発に努める。

（設計）CADシステムによる図面管理の完成を目指す。

CADシステムによる設計図面管理・包装ラインの周辺技術等を取り入れ、近代包装の開発設計に努めるとともに、必要な安全性や、その操作性・耐久性を考慮に入れたシステム設計とそのエンジニアリングを目指す。



- ① カップ自動供給装置
- ② カップ
- ③ 生産機
- ④ 定量充填機
- ⑤ 味噌押さえ
- ⑥ パーチメント自動供給装置
- ⑦ パーチメント押さえ
- ⑧ 脱酸素材自動供給装置
- ⑨ ホットメルト自動供給装置
- ⑩ ホットメルト仮シール装置
- ⑪ ホットメルト熱盤
- ⑫ ホットメルト冷却プレス
- ⑬ 外蓋自動供給および押さえ込み装置
- ⑭ 外蓋押さえ
- ⑮ 製品取り出し装置



YKシリーズロボットの思考省力化システム

（製作・加工・組み立て）自由な発想を持って全員技術者の自覚を發揮。

私たち製造部の全員は、技術者であるという自覚を持ち、ただ加工組立をするだけにとどまらず、常に良いアイデアの着想と組立の効率化を意識している。また、一人ひとりの自由な発想と、その力を大切に。これは、お客様からも、強い信頼感を得ている。

（検査・納入）メカニカル機構のタイミング調整とその機能チェックを完璧に実施

出荷を前にした検査は、まず、契約時の仕様と合致しているか？その動作確認検査を行う。また、実際に使用されている袋や容器を使って、社内充填テストが実施される。原則として、お客様の立会いによる確認試運転を行い、その後、最終的に技術部検査員による機能チェックを行ってから、納入するシステムを採用している。

また、お客様へ納入し、据付調整運転指導に当たっては、納入機の製作・組立担当者が出向するため、問題点の処理やお客様の要求のフィードバックも早く解決され好評をいただいている。

3.新しい時代に望まれるエンジニア

常にプラス思考に物事を展開していくため

に、自分らしさを出して行ける強い意志と謙虚さを持ってほしいと思う。これからの世の中は、我が国日本の中だけで判断することは非常に困難になってきた。早い時期から諸外国の情報や考え方に触れ、学ぶことが必要だと思う。皆が、自身で新しい未来づくりをして行く希望を持ち続けられれば、必ずや実現化できると信じている。弊社は、今後も未来へ融合して行く精神で、進んでいきたいと思っている。「Fusion to the future」で…



Mシリーズオールラウンドの匠：単能機

〒223-0056 横浜市港北区新吉田町2903-1
TEL045-531-3388, FAX045-531-3299
www.yokohama-jidoki.co.jp